

## 8

## 山口大学医学部附属病院

## 【当直体制】

指導医1名、  
研修医1名

## 【当直回数（月平均）】

2回

## 【当直時の患者数】

15人程度  
（病院全体）

## 【当直手当】

臨床研修手当に  
含む

## ■ 研修医の役割

各科研修中の当直では、各診療領域疾患の初期対応（診察、採血、エコーなど）を行います。先進救急医療センターにおける研修では三次救急の対応を学びます。

## ■ 指導医からのフィードバック

指導医がマンツーマンで指導し、その都度フィードバックを行います。診察から治療方針決定までの流れについて振り返り、手技の指導や画像読影も行います。

## ■ 当直で身に付く手技・知識

基本的疾患の初期対応全般（採血、ルート確保、エコー、CT・MRI読影、心肺蘇生、縫合止血など）。

## 9

## 宇部興産中央病院

## 【当直体制】

指導医1名、研修医2名  
（土日祝日で二次救急日の  
日直は指導医2名）

## 【当直回数（月平均）】

4～7回

## 【当直時の患者数】

10人前後

## 【当直手当】

1年目：平日 9,500円/回  
休日 12,000円/回  
2年目：平日 10,000円/回  
休日 12,000円/回

## ■ 研修医の役割

指導医の下、あらゆる救急患者に初診対応することで、プライマリーケアにおける問診能力と基礎技術の習熟を図る。

## ■ 指導医からのフィードバック

形式的なものはないが、親切な先生ばかりなのでわからないことは質問しやすい。専門の先生に紹介すると後日、患者さんの状態を教えてください。

## ■ 当直で身に付く手技・知識

救急でのABCD。

## 10

## 宇部協立病院

## 【当直体制】

指導医1名、研修医1名  
（副直として）

## 【当直回数（月平均）】

3～4回

（副直として）

## 【当直時の患者数】

5～10人程度

## 【当直手当】

10,000円/回（1年次）  
15,000円/回（2年次）  
（副直手当として）

## ■ 研修医の役割

指導医のもとで、副直として勤務。指導医とともにファーストタッチを行う。

## ■ 指導医からのフィードバック

その都度振り返りを実施、指導医からフィードバックを行う。レポートを提出して評価を受けることも。

## ■ 当直で身に付く手技・知識

静脈・動脈採血、ルート確保、止血、縫合、腰椎穿刺等の手技、心電図、エコー、CT、MRIなどの読み方、全身を診るための知識。

## 11

## 山口労災病院

## 【当直体制】

研修医1名、指導医は  
内科系・外科系各1名

## 【当直回数（月平均）】

4回

## 【当直時の患者数】

8.6人

## 【当直手当】

21,000円/回+  
実働時間分の時間外  
勤務手当

## ■ 研修医の役割

指導医のもとアナムネ聴取や身体診察・検査のオーダー、治療を実施する。

## ■ 指導医からのフィードバック

その場で丁寧なアドバイスがあり、患者が入院した場合、入院後の経過についても報告を受けることができる。

## ■ 当直で身に付く手技・知識

患者トリアージ、  
基本的かつ重要な診察・診断手技  
治療や一般処置。

## 12

## 下関医療センター

## 【当直体制】

指導医2名  
（内科系・外科系各1名）、  
研修医1～2名

## 【当直回数（月平均）】

月4回

（救急部門選択週は6回）

## 【当直時の患者数】

20人程度（病院全体）

## 【当直手当】

21,000円/回  
+超過勤務手当

## ■ 研修医の役割

指導医・上級医（内科系・外科系各1名）の指導のもとファーストタッチを行い、処置や治療を行う。

## ■ 指導医からのフィードバック

当直の現場で丁寧な指導があり、後日のフィードバックも得る。症例検討会やCPCの指導あり。

## ■ 当直で身に付く手技・知識

救急部門（外来）としての初期対応（採血、ルート確保、画像診断読影、心肺蘇生、患者・家族への対応等）。県下最大の約26万人の下関市の救急体制の症例。

## 13

## 関門医療センター

## 【当直体制】

輪番日（4日に1回）：  
指導医3名（1名は放射線科医）、  
研修医6名

非番日（4日に3回）：  
指導医1名、研修医2～3名

## 【当直回数（月平均）】

6～8回

## 【当直時の患者数】

輪番日：20～25人、  
非番日：5人

## 【当直手当】

20,000円/回+時間外手当

## ■ 研修医の役割

救急全症例のファーストタッチを研修医が行う。血液検査、CT検査なども研修医の判断で実施。

## ■ 指導医からのフィードバック

鑑別診断まで行った後に指導医に相談し、フィードバックを受ける。週1回、救急症例全例の振り返り検討会を指導医と共に行う。

## ■ 当直で身に付く手技・知識

救急症例の検査（エコーなど）から鑑別診断、治療計画までを1人で出来るようになる。動静脈穿刺、縫合、挿管などほぼ全ての臨床手技が身に着く。

## 14

## 済生会下関総合病院

## 【当直体制】

指導医2名、  
研修医適宜

## 【当直回数（月平均）】

適宜

## 【当直時の患者数】

20人程度

## 【当直手当】

20,000円/回（1年次）  
20,000円/回（2年次）

## ■ 研修医の役割

ファーストタッチを担い、指導医とともに救急外来から病棟入院までの対処を行う。

## ■ 指導医からのフィードバック

救急現場での検査や診察の在り方、どの程度治療が必要か、また、その後の経過や当直時の対応の反省点などの指導を受ける。

## ■ 当直で身に付く手技・知識

外傷の処置、救急外来としての検査の在り方、静脈ルート確保、CPRの実践など。

## 15

## 下関市立市民病院

## 【当直体制】

指導医2名、  
研修医2～3名

## 【当直回数（月平均）】

3回

## 【当直時の患者数】

15人程度

## 【当直手当】

25,000円/回

## ■ 研修医の役割

副当直としての役割であるが全てファーストタッチを行う。必ず内科系医師1名、外科系医師1名、管理当直医1名の3名が指導医としてバックアップする。

## ■ 指導医からのフィードバック

指導医より適宜診断や治療方針のディスカッションを実施。注意すべきポイントについても指導します。

## ■ 当直で身に付く手技・知識

基本的疾患の初期対応。  
外科的手技、CPRの実施など。